

機械工学科ディプロマポリシー(卒業認定・学位授与に関する方針)  
機械工学科では、国際化時代を生き抜く能力、機械工学の基礎に立脚した「ものづくり」ができる能力、論理的な考え方や問題解決能力を備えた機械技術者を育成することを教育の目標とし、厳格な成績評価により教育カリキュラムを運営しています。これらの考えに基づいて開講された科目を履修して、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与します。卒業までに身につけておくべき資質・能力を以下具体的に示します。

1 関心・意欲・態度  
1) 自発的な学修を意欲的に遂行する姿勢と技術者としての倫理観を理解し、説明することができること。  
2) 機械と人間が共存することを基本概念とし、インフラ整備も含めた機械の設計に対する考え方や責任感を理解できること。  
3) 機械技術者として新しい知識や国際的な情報も視野に入れるため、継続して自主的に学修する重要性が理解できていること。

2 思考・判断  
1) 地球規模の問題を視野に入れ、機械を稼働させるために必要なエネルギーが有効的に活用される方法を立案できること。  
2) グループ内での役割分担を理解し、協調的に行動すると同時に、積極的に活動できること。  
3) 問題を発見し、解決する能力を備えた国際性豊かな機械技術者としての考え方に基づいて、解析・考察ができること。

3 技能・表現  
1) 実験を計画的に策定することによって、積極的に実験を遂行し、実験の結果を考察して論文にまとめ、プレゼンテーションを通して論理的に議論できること。  
2) 機械技術者として国際化時代を生き抜くために必要な英語力を身につけていること。  
3) 目標を達成するために問題点を整理して、解決するための手法を選定し、それらを遂行するための計画に優先順位をつけて実行できる「エンジニアリングデザイン能力」を身につけていること。

4 知識・理解  
1) 国際的に活躍するために必要な機械工学の基礎知識を身につけていること。  
2) 設計や生産に関する機械工学の基礎に立脚した「ものづくり」ができる能力を身につけていること。  
3) 機械工学分野の高度な専門知識と発生した課題を解決する能力を身につけていること。

【ナンバリング付番ルール】

≪総合科目・外国語科目≫  
 <百の位> 1  
 <十の位> 開講年次を記入 開講年次 1~4 の場合、1番低いものに合致す。 ※1~4:1, 2~4:2  
 <一の位> 人間性・社会性科目群: 1 地域性・国際性科目群: 2 課題設定・問題解決科目群: 3 表現・スポーツ・健康活動科目群: 4 専門基礎・自然科学科目群 5 「~Ⅰ」:6 「~Ⅱ」:7 外国語共通(海外語学研修):8

≪専門科目≫  
 <百の位> 1年生専門:2 2年生専門:3 3年生専門:4 卒研・卒研ゼミ:5  
 <十の位> 開講年次  
 <一の位> 工学基礎(「演習」が付くものを除く):1 実験・実習(上記の「演習」を加える):2 材料と構造:3 運動と振動:4 設計と生産管理:5 エネルギーと流れ:6 情報と計測制御:7 応用・関連:8

科目区分	科目名	開講年次	単位	必修選択の別	学習・教育目標及び到達目標	1			2			3			4			ナンバリング				
						1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	百の位	十の位	一の位	合計	
総合科目	哲学	1~3年次	2単位	選択科目	【学習・教育目標】自律の力を養う。 【到達目標】受講者はこの科目を履修することによって、以下のことができるようになる。 1. 授業で紹介された哲学者の基本的な立場を理解できる。 2. その考え方に対する自分の意見を述べることができる。 3. 毎時間ごとに示されるキーワードをよりどころとして、自分は周囲の環境や人々そして自分自身をどのようにとらえているのかを再確認できる。			◎											1	1	3	113
総合科目	心理学	1~3年次	2単位	選択科目	【学習・教育目標】心理学がとらえてきた「心」の仕組みや働きを理解する。 【到達目標】受講者はこの科目を履修することによって、以下のことができるようになる。 1. 講義の中でとりあげた基礎概念を、実例を用いて説明する。 2. 日常の事象をこれらの基礎概念の実例として紹介する。			◎											1	1	3	113
総合科目	日本国憲法	1~3年次	2単位	選択科目	【学習・教育目標】憲法の根底にある基本原理を理解することを通じて、人権感覚を練磨し、政治参加主体となるために必要な基礎的知識を修得させる。 【到達目標】受講者はこの科目を履修することによって、以下のことができるようになる。 1. 統治機構の運営上生じる憲法問題を正確に理解できる。 2. 重要な憲法裁判例の事実関係およびそこにおける憲法上の争点を把握したうえで、国家行為の合憲性について推論し、結論に至るまでの論理を説明できる。			◎											1	1	3	113
総合科目	人権論	1~3年次	2単位	選択科目	【学習・教育目標】人権保障の根底にある価値理念を理解することを通じて、人権感覚、規範意識を修得させる。 【到達目標】受講者はこの科目を履修することによって、以下のことができるようになる。 1. 人権保障の根底にある価値理念を理解できる。 2. 上記価値理念が個別具体的事案においてどのように実現されているか、または実現されるべきかを、対立する諸見解をふまえて説明できる。			◎											1	1	3	113
総合科目	経済学	2~3年次	2単位	選択科目	【学習・教育目標】国際的に通用する基礎的なコミュニケーション能力を養成する。 【到達目標】 【平成30年度開講予定科目のため、詳細なシラバスの設定なし】			◎											1	1	5	115

科目区分	科目名	開講年次	単位	必修選択の別	学習・教育目標及び到達目標	1			2			3			4			ナンバリング				
						1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	百の位	十の位	一の位	合計	
総合科目	政治基礎論	1～3年次	2単位	選択科目	【学習・教育目標】本国憲法の統治構造の根底にある基本原理を理解することを通じて、政治参加主体となるために必要な基礎的知識を修得させる。 【到達目標】受講者はこの科目を履修することによって、以下のことができるようになる。 1. 日本国憲法の統治構造の根底にある基本原理を理解し、この原理が具体的な統治構造にどのように反映されているかを把握できる。 2. 政治運営のなかで生じる人権問題の解決法について、事例をあげつつ説明できる。			◎											1	1	3	113
総合科目	教養特殊講義A	2～3年次	2単位	選択科目	【学習・教育目標】 【到達目標】 【平成30年度開講予定科目のため、詳細なシラバスの設定なし】														1	1	9	119
総合科目	ことばと文化	2～3年次	1単位	選択科目	【学習・教育目標】 【到達目標】 【平成30年度開講予定科目のため、詳細なシラバスの設定なし】					◎									1	2	5	125
総合科目	日本語の技法	1年次	2単位	選択科目	【学習・教育目標】自分の考えや伝えるべきことを、書き言葉で的確に表現する能力を養う。レポート作成や論文作成で、卒業後の実社会でも必要とされる文章作成能力を養うことを目標とする。 【到達目標】受講者はこの科目を履修することによって、以下のことができるようになる。 1. 自分の考えや伝えるべきことを、書き言葉で的確に表現する能力を養う。 2. レポート作成や論文作成で、卒業後の実社会でも必要とされる文章作成能力を養うことを目標とする。 3. 自分の日本語表現力を各テストにて自覚し、論理的な文章を書くために基礎的な事柄を学習していく。						◎								1	2	1	121
総合科目	人間と文化	1～3年次	2単位	選択科目	【学習・教育目標】主に時事問題を題材にして、読解力を高め、関連する知識を増やし、考察し、自分の意見が発表できることを目標とする。 【到達目標】受講者はこの科目を履修することによって、以下のことができるようになる。 1. 現代社会における注目の時事問題に関する知識を得る。 2. 文章表現、構造を学び、大学生にふさわしい読解力を身に付ける。 3. 付加情報について収集し、考察し、大学生にふさわしい自分の感想、意見をもち発表できる。			◎											1	2	3	123
総合科目	東広島学	1～3年次	2単位	選択科目	【学習・教育目標】東広島市の郷土の宝、歴史やまちづくりについて学び、さらに、本科目にあるフィールドワークを通じて社会活動の重要性や地域貢献の必要性について学ぶ。 【到達目標】受講者はこの科目を履修することによって、以下のことができるようになる。 1. 東広島地域の歴史・現在と将来計画について理解し、現在、本市が抱えている問題、本市が進もうとしている方向、本市の有する資産、産業、福祉、教育、文化等幅広く学習する。 2. 各学科で行う専門教育の基礎的な知識・考え方を身に付ける。			◎											1	2	3	123
総合科目	国際経営論	2～3年次	2単位	選択科目	【学習・教育目標】企業活動、企業倫理、コンプライアンス、コーポレートガバナンス、内部統制、CSR(企業の社会責任)、リスク管理等について理解し、企業における情報システム構築時における問題意識を醸成することを目標とする。 【到達目標】 受講者はこの科目を履修することによって、以下のことができるようになる。 (1) 国際経営に関する基本的視点と考え方について、概要が理解できるようになる。 a) 経営の国際化の現状と方向 b) 異文化コミュニケーション/IT革命/国際的リスク等の経営へのインパクト c) 各種国際戦略(提携/マーケティング/調達/生産技術等)の必要性 d) 国際経営への影響因子(組織/企業文化/人事管理/人材管理、等)のポイント (2) 上記(1)の知識習得に並ぶ目標・成果として、国内外のビジネス・経済の動きに興味を持てる人			◎											1	2	5	125
総合科目	グローバルキャリア論	2～3年次	2単位	選択科目	【学習・教育目標】 【到達目標】 【平成30年度開講予定科目のため、詳細なシラバスの設定なし】						◎								1	2	5	125
総合科目	教養特殊講義B	2～3年次	2単位	選択科目	【学習・教育目標】 【到達目標】 【平成30年度開講予定科目のため、詳細なシラバスの設定なし】														1	2	9	129
総合科目	キャリアデザイン	1～3年次	2単位	選択科目	【学習・教育目標】望ましい職業観を育成し、適切な進路選択を自律・自立的に行う能力の伸長をはかる。 【到達目標】受講者はこの科目を履修することによって、以下のことができるようになる。 1. 進路についての情報を主体的に探索する。 2. 自らの特性を理解し、それを進路に適切に関係づける。 3. 自らの進路を自律・自立的に計画し決定しようとする姿勢・態度をもつ。						◎								1	3	3	133
総合科目	職業の理解	2～3年次	2単位	選択科目	【学習・教育目標】望ましい職業観を育成し、適切な進路選択を自律的に行う能力の伸長をはかる。 【到達目標】受講者はこの科目を履修することによって、以下のことができるようになる。 1. 企業経営の仕組みを学び、多様な業界・職業と職務内容を知る。 2. 新規事業ビジネスプランや「チョイスゲーム」の導入により、グループ演習を通じて提案力、プレゼンテーション力、コミュニケーション能力を高める。 3. 職場や地域で活躍する上で必要となる社会人基礎力「考える力」「チームで働く力」「チームで踏み出す力」を身に付ける。						◎								1	3	5	135

科目区分	科目名	開講年次	単位	必修選択の別	学習・教育目標及び到達目標	1			2			3			4			ナンバリング					
						1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	百の位	十の位	一の位	合計		
総合科目	生活と倫理	1～3年次	2単位	選択科目	【学習・教育目標】自律の力を養う。 【到達目標】受講者はこの科目を履修することによって、以下のことができるようになる。 1. 授業で紹介された倫理的用語の基本的な意味を理解できる。 2. 身の回りの具体例を挙げながらそれを説明することができる。 3. 毎時間ごとに示されるキーワードをよりどころとして、自分は周囲の環境や人々そして自分自身をどのようにとらえているのかを再確認できる。	◎													1	3	3	133	
総合科目	社会行動論	2～3年次	2単位	選択科目	【学習・教育目標】 【到達目標】 【平成30年度開講予定科目のため、詳細なシラバスの設定なし】			◎											1	3	5	135	
総合科目	エンジニアリング・デザイン	2～3年次	2単位	選択科目	【学習・教育目標】多様な知識や見識とそれらを使いこなす素養を要し、俯瞰的な視点から社会的ニーズを正確に捉えることができ、技術を実践的・実用的かつ安全に扱える者の育成。 【到達目標】受講者はこの科目を履修することによって、以下のことができるようになる。 1. 社会からの厳しいニーズに対応できる論理的考察が可能な基礎的素養を獲得し、設計開発業務等において実践的に社会で強く戦える技術者を目指す。		◎												1	3	5	135	
総合科目	インターンシップ研修	2～3年次	2単位	選択科目	【学習・教育目標】企業の現場において実習・研修的な就業体験を行うことによって、独創的な技術やノウハウ等に触れながら実務能力を高めることができる。 【到達目標】受講者はこの科目を履修することによって、以下のことができるようになる。 1. 実習・研修的な就業体験により、技術者・職業人としての自覚を持ち、得られた知見を説明できる。					◎									1	3	4	134	
総合科目	教養ゼミナール	2～3年次	2単位	選択科目	【学習・教育目標】少人数のクラスで異なる学年・学科の学生が交流しながら、主体的な学びを通して、各テーマに関する知識や技能を修得する。 【到達目標】受講者はこの科目を履修することによって、以下のことができるようになる。 1. 各テーマに関する知識や技能を修得する。 2. 学年・学科を超えて協同して学び活動することができる。 3. 主体的に学修することができる。								◎						1	3	5	135	
総合科目	教養特殊講義C	2～3年次	2単位	選択科目	【学習・教育目標】 【到達目標】 【平成30年度開講予定科目のため、詳細なシラバスの設定なし】														1	3	9	139	
総合科目	芸術論	2～3年次	2単位	選択科目	【学習・教育目標】西洋美術の歴史を通して芸術を学ぶと同時に、実際絵を描き美術館を訪れることで芸術的センスを磨く。 【到達目標】受講者はこの科目を履修することによって、以下のことができるようになる。 1. 西洋美術の歴史を概説し、芸術の歴史を理解できる。 2. 授業で出題されるスケッチを描くことで、表現を身につけることができる。 3. 実際に美術館を訪れることで、芸術的センスを磨くことができる。専															1	4	5	145
総合科目	工業デザイン	2～3年次	2単位	選択科目	【学習・教育目標】 【到達目標】 【平成30年度開講予定科目のため、詳細なシラバスの設定なし】		◎												1	4	5	145	
総合科目	生涯スポーツⅠ	1～3年次	1単位	選択科目	【学習・教育目標】スポーツの実践を通じて、生涯にわたる健康の保持増進に寄与する体力を養う。 【到達目標】受講者はこの科目を履修することによって、以下のことができるようになる。 1.生涯を通じたスポーツ実践に必要な基礎体力の意義を理解できる。 2.ソフトボールのゲームにおいて基礎的技術(ゲーム戦術・戦略および審判方法)を実践することができる。														1	4	3	143	
総合科目	生涯スポーツⅡ	1～3年次	1単位	選択科目	【学習・教育目標】スポーツの実践を通じて、生涯にわたる健康の保持増進に寄与する体力を養う。 【到達目標】受講者はこの科目を履修することによって、以下のことができるようになる。 1.生涯を通じたスポーツ実践に必要な基礎体力の意義を理解できる。 2.フットサルのゲームにおいて基礎的技術(ゲーム戦術・戦略および審判方法)を実践することができる。														1	4	3	143	
総合科目	スポーツ概論	1～3年次	2単位	選択科目	【学習・教育目標】健康・スポーツを科学的に理解する。 【到達目標】受講者はこの科目を履修することによって、以下のことができるようになる。 1. スポーツ文化を歴史・社会的に理解することができる。 2. トレーニングや健康に関する諸理論を学ぶことによって、スポーツを科学的に理解することができる。															1	4	3	143
総合科目	健康と安全	2～3年次	2単位	選択科目	【学習・教育目標】心身ともに健康的な生活を営み、豊かな社会の構築のために自らの専門とする知識・技能を活用する態度を身に付ける。 【到達目標】受講者はこの科目を履修することによって、以下のことができるようになる。 1. 健康の概念を理解し、自らの生活習慣を見直すことをとおして、その保持・増進をはかる。 2. 安全・安心な生活を送るための危険予知、安全保持、危険対処の方法を日常行動の中に取り入れる。															1	4	5	145
総合科目	メンタルヘルス	2～3年次	2単位	選択科目	【学習・教育目標】メンタルヘルスに関わる諸問題とその背景的要因、ならびにそれらへの対応について理解する。 【到達目標】受講者はこの科目を履修することによって、以下のことができるようになる。 1. メンタルヘルスに関わる諸問題とその背景的要因について概念的な説明する。 2. メンタルヘルスについて、基本的な予防と治療の方法について解説をする。															1	4	5	145
総合科目	余暇論	2～3年次	2単位	選択科目	【学習・教育目標】余暇の本来的意味を学び、余暇の現状や諸問題を理解する。 【到達目標】受講者はこの科目を履修することによって、以下のことができるようになる。 1.余暇(レジャー)の本来的意味を理解できる。 2.現代社会におけるレジャーの意義を認識するとともに、各自の生活における有効なレジャー活動を創造・実践できる。															1	4	5	145
総合科目	工学倫理	2～3年次	2単位	必修科目	【学習・教育目標】これから社会に出て活躍する諸君が、倫理的諸問題を認識・発見し、それを考察し、実践的に解決に導くための基礎を身に付けることを目的とする。	◎													1	6	5	165	



科目区分	科目名	開講年次	単位	必修選択の別	学習・教育目標及び到達目標	1			2			3			4			ナンバリング					
						1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	百の位	十の位	一の位	合計		
外国語科目	英語B II	1年次	1単位	選択科目	【学習・教育目標】国際的に通用する基礎的なコミュニケーション能力を育成する。 【到達目標】 受講者はこの授業を履修することによって、以下のことができるようになる。 1. TOEICテストの出題形式に慣れ、パートごとに的確に対応できる。 2. 設問や選択肢など提示された情報から、何を問われているのか推察できる。 3. 比較的ゆっくり読まれている英文を聞いて、全体的なトピックが把握できる。 4. 比較的ゆっくり読まれている英文を聞いて必要な情報を聞き取り、平易な質問に答えることができる。 5. 継続的に自学自習する習慣を身につける。 6. TOEICのスコアを英語運用能力定着の1つの指標とし、300点を到達目標とする。														1	5	2	152	
外国語科目	英語C I	2年次	1単位	選択科目	【学習・教育目標】国際的に通用する基礎的なコミュニケーション能力を育成する。 【到達目標】 受講者はこの科目を履修することによって、TOEICのスコアを英語運用能力定着の1つの指標とし、400点に到達することができるようになる。														1	5	3	153	
外国語科目	英語C II	2年次	1単位	選択科目	【学習・教育目標】国際的に通用する基礎的なコミュニケーション能力を育成する。 【到達目標】 受講者はこの科目を履修することによって、TOEICのスコアを英語運用能力定着の1つの指標とし、500点に到達することができるようになる。														1	5	4	154	
外国語科目	英語D I	2年次	1単位	選択科目	【学習・教育目標】国際的に通用する最低限のコミュニケーション能力を育成する。 【到達目標】 受講者はこの科目を履修することによって、以下のことができるようになる。 1. 英語学習に必要な学習態度を身につける 2. 基礎的な語彙力を身につける 3. 基礎的な文法力を身につける														1	5	3	153	
外国語科目	英語D II	2年次	1単位	選択科目	【学習・教育目標】国際的に通用する最低限のコミュニケーション能力を育成する。 【到達目標】 受講者はこの科目を履修することによって、以下のことができるようになる。 1. 英語学習に必要な学習態度を身につける 2. 基礎的な語彙力を身につける 3. 基礎的な文法力を身につける														1	5	4	154	
外国語科目	英語応用 I	3年次	1単位	選択科目	【学習・教育目標】使用テキストの重要な目的でもある、「全体的なエッセイの構造を考えながら掴む」という読解の技能を育成すること。(エッセイにおけるそれぞれのパラグラフが持っている役割を明確に理解し、論理的に読み進んでいき、全体の内容理解を深める。) 【到達目標】 受講者はこの科目を履修することによって、以下のことができるようになる。 1. 必要に応じて辞書を引きながら、新聞記事、雑誌記事、勉強に必要な専門書が正確に理解できる程度の力を身につける。 2. TOEIC 500点に到達することができるようになる。														1	5	5	155	
外国語科目	英語応用 II	3年次	1単位	選択科目	【学習・教育目標】使用テキストの重要な目的でもある、「全体的なエッセイの構造を考えながら掴む」という読解の技能を育成すること。(エッセイにおけるそれぞれのパラグラフが持っている役割を明確に理解し、論理的に読み進んでいき、全体の内容理解を深める。) 【到達目標】 受講者はこの科目を履修することによって、以下のことができるようになる。 1. 必要に応じて辞書を引きながら、新聞記事、雑誌記事、勉強に必要な専門書が正確に理解できる程度の力を身につける。 2. TOEIC 500点に到達することができるようになる。														1	5	6	156	
外国語科目	英会話基礎 I	2年次	1単位	選択科目	【学習・教育目標】国際的に通用する最低限のコミュニケーション能力を育成する。 【到達目標】 受講者はこの科目を履修することによって、以下のことができるようになる。 1. 異文化理解を含む、実践的コミュニケーションのための英語会話能力を修得する。 2. 日常生活に最低限必要な会話パターンを修得した上で、感情的要素も含めた英語コミュニケーションに関わる各種パフォーマンススキルを体得する。															1	5	3	153
外国語科目	英会話基礎 II	2年次	1単位	選択科目	【学習・教育目標】国際的に通用する最低限のコミュニケーション能力を育成する。 【到達目標】 受講者はこの科目を履修することによって、以下のことができるようになる。 1. 異文化理解を含む、実践的コミュニケーションのための英語会話能力を修得する。 2. 日常生活に最低限必要な会話パターンを修得した上で、感情的要素も含めた英語コミュニケーションに関わる各種パフォーマンススキルを体得する。															1	5	4	154

科目区分	科目名	開講年次	単位	必修選択の別	学習・教育目標及び到達目標	1			2			3			4			ナンバリング						
						1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	百の位	十の位	一の位	合計			
外国語科目	英会話応用 I	3年次	1単位	選択科目	【学習・教育目標】国際的に通用する基礎的なコミュニケーション能力を育てる。 【到達目標】受講者はこの科目を履修することによって、以下のことができるようになる。 1. 英会話基礎で修得した日常生活レベルのコミュニケーション運用能力を発展させ、意思伝達にとどまらず論理的に相手を納得させられる発話レベルを修得できる。 2. ディベートやパブリックスピーチ能力を修得できる。								◎						1	5	5	155		
外国語科目	英会話応用 II	3年次	1単位	選択科目	【学習・教育目標】国際的に通用する基礎的なコミュニケーション能力を育てる。 【到達目標】受講者はこの科目を履修することによって、以下のことができるようになる。 1. 英会話基礎で修得した日常生活レベルのコミュニケーション運用能力を発展させ、意思伝達にとどまらず論理的に相手を納得させられる発話レベルを修得できる。 2. ディベートやパブリックスピーチ能力を修得できる。								◎						1	5	6	156		
外国語科目	ドイツ語 I	1年次	1単位	選択科目	【学習・教育目標】英語とは異なる言語を学び、言語の規則性をより深く学ぶ。ドイツ語を通じて異文化に触れる。 【到達目標】受講者はこの科目を履修することによって、以下のことができるようになる。 1. テキストのドイツ語文が正しい発音で読める。 2. ドイツ語で挨拶、自己紹介ができる。 3. 動詞の活用、冠詞類の格変化などのドイツ語特有の文法規則に慣れる。														1	5	7	157		
外国語科目	ドイツ語 II	1年次	1単位	選択科目	【学習・教育目標】ドイツ語を通じて、異文化に触れる。既習の文法知識を応用する能力を身につける。 【到達目標】受講者はこの科目を履修することによって、以下のことができるようになる。 1. テキストのドイツ語が正しい発音で読める。 2. テキストのドイツ語を聞き取り、簡単な日常表現が言える。 3. ドイツ語の文法構造を理解できる。															1	5	8	158	
外国語科目	フランス語 I	1年次	1単位	選択科目	【学習・教育目標】国際的に通用する基礎的なコミュニケーション能力を育成する。 【到達目標】受講者はこの科目を履修することによって、以下のことができるようになる。 1. フランス語の特徴をつかみ、正しい発音で初歩の会話ができる。 2. 平易な文を読むことができる。 3. 異文化への関心と理解を深め、多彩な価値観を知る。															1	5	7	157	
外国語科目	フランス語 II	1年次	1単位	選択科目	【学習・教育目標】国際的に通用する基礎的なコミュニケーション能力を育成する。 【到達目標】受講者はこの科目を履修することによって、以下のことができるようになる。 1. フランス語の特徴をつかみ、正しい発音で初歩の会話ができる。 2. 平易な文を読むことができる。 3. 異文化への関心と理解を深め、多彩な価値観を知る。 4. フランス語技能検定試験5級・4級レベルの実用的フランス語を身につけることができる。															1	5	8	158	
外国語科目	中国語 I	1年次	1単位	選択科目	【学習・教育目標】「違う価値観」の豊かさを実感すること。 【到達目標】受講者はこの科目を履修することによって、以下のことができるようになる。 1. テキストの中国語文を正しい発音で読むことができる。 2. 発音をヒアリングして発音表記で正しく表記できる。 3. 中国語文の文法構造が理解できたうえで、その文法を活用して短文を作ることができる。 4. 会話発音中心で、簡単なコミュニケーションの方法を修得する。																1	5	7	157
外国語科目	中国語 II	1年次	1単位	選択科目	【学習・教育目標】「違う価値観」の豊かさを実感すること。 【到達目標】受講者はこの科目を履修することによって、以下のことができるようになる。 1. テキストの中国語文を正しい発音で読むことができる。 2. 発音をヒアリングして発音表記で正しく表記できる。 3. 中国語文の文法構造が理解できたうえで、その文法を活用して短文を作ることができる。 4. 会話発音中心で、簡単なコミュニケーションの方法を修得する。																1	5	8	158
外国語科目	海外語学研修	1～4年次	2単位	選択科目	【学習・教育目標】3～4週間の集中講義を受講することにより語学運用能力を向上させることができる。異文化体験を通して国際的感覚を身につけることができる。 【到達目標】受講者はこの科目を履修することによって、以下のことができるようになる。 1. 異文化を理解した上で国際的感覚を身につける。 2. 日常生活および社会生活で通用し得る実践的な語学力を身につけ、コミュニケーションがとれるようになる。																1	5	9	159



科目区分	科目名	開講年次	単位	必修選択の別	学習・教育目標及び到達目標	1			2			3			4			ナンバリング					
						1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	百の位	十の位	一の位	合計		
専門科目	物理学Ⅱ	1年次	2単位	必修科目	【学習・教育目標】剛体の力学と電磁気学の基本法則を理解し、それらの基本問題を解くことができる。 【到達目標】 1. 剛体のつり合い、剛体の回転運動が理解できる。(B):0.2 2. クーロンの法則、電場の問題が解ける。(B):0.2 3. オームの法則、キルヒホッフの法則を説明できる。(B):0.2 4. 電流のつくる磁場の問題が解ける。(B):0.2 5. レンツの法則を説明できる。(B):0.2			○			○			◎				2	1	1	211		
専門科目	物理学演習	1年次	1単位	選択科目	【学習・教育目標】機械工学が扱う材料力学、機械力学、流体力学、熱力学の基礎となる知識を修得する。 【到達目標】 1. 単位と単位換算・ベクトル・微積分学の基礎など、物理学の学習に必要な基礎能力を修得する。(B):0.2 2. 物理学における運動の基礎知識を修得する。(B):0.4 3. 物理学における力と運動の基礎知識を修得する。(B):0.4			○			○			◎				2	1	2	212		
専門科目	工業力学	2年次	2単位	必修科目	【学習・教育目標】力のつり合い、運動方程式、図心・重心、剛体の力学、慣性モーメント、回転運動の概念を修得させる。 【到達目標】 1. 図心・重心の位置を計算で求めることができる。(C):0.2 2. 剛体の運動が理解できる。(C):0.2 3. 力のつり合い、運動方程式が理解できる。(C):0.2 4. 慣性モーメント、回転の運動方程式が理解できる。(C):0.2 5. 剛体の運動とエネルギーの関係が理解できる。(C):0.2								◎		○			2	2	1	221		
専門科目	電算機基礎演習	1年次	1単位	必修科目	【学習・教育目標】 1. Microsoft Officeアプリケーション(Word/Excel/Power Point)の基本的な操作方法を身に付ける。(ビジネス文章の作成、関数やグラフを使った表作成、スライドによる資料作成レベル) 2. コンピュータの構成などIT基礎知識の習得と、インターネットのメリットデメリットを理解し、適切な利用方法を身に付ける。 3. eラーニングを活用し、自らアプリケーション操作に関するスキルアップを図る。 【到達目標】受講者はこの科目を履修することによって以下のことができるようになる。 1. Microsoft Officeアプリケーション(Word/Excel/Power Point)の基本的な操作法の習得 (F):0.3 2. コンピュータの適切な利用法の習得 (F):0.2, (C):0.2 3. 学生自ら表計算ができる。(C):0.3								◎		○				2	1	1	211	
専門科目	機械工学基礎実験Ⅰ	2年次	2単位	必修科目	【学習・教育目標】座学で学んだ、あるいは学ぶ事柄を、実体験を通して学習する。 1. 与えられたテーマにより、実験を通して現象の観察、理論的な考察する能力を身につける。 2. 実験で得たデータ整理の仕方、レポートの作成の方法を身につける。 【到達目標】 1. 実験テーマについての基礎的な事項が理解でき、実験装置の取り扱いができる。(E):0.1 2. 実験の結果を整理し、レポート作成の書式を習得する。(F):0.6 3. グループで共同して実験を行い、各人の責任感を養成する。(G):0.3						○	○	◎		○				3	2	2	322	
専門科目	機械工学基礎実験Ⅱ	2年次	2単位	必修科目	【学習・教育目標】与えられた制約下で一連の作業を行うことにより、与えられた課題の意味を理解する分析能力やその解決手法を見いだす探索能力、得られた成果を検証・評価し改善策を提案する能力、機器を適切に選択・使用できる知識、情報端末を利用したデータ分析・処理能力、協同して一連の作業が行える協調性などを身に付ける。 【到達目標】 1. 基礎的な機械および要素について設計・解析できる。(E):0.3 2. 観測したい物理量を含む基礎的なモデルを数式で表し、測定方法や実験方法をデザインできる。(D):0.3 3. 測定結果の精度を検討し、問題点や改善方法を提案できる。(F):0.2 4. 協同して一連の作業を遂行できるチームワーク力を発揮できる。(G):0.1 5. 報告書やプレゼンテーションにより目的・方法・結果・考察を表現・伝達できる。(G):0.1							○	○	◎		○				3	2	2	322
専門科目	機械工学実験	3年次	2単位	必修科目	【学習・教育目標】機械工学における各種の分野の基礎的な実験を行い、種々の現象に対する理論的・実験的な理解を深め、実験・研究の進め方や考え方および報告書の作成方法などを習得する。 【到達目標】 1. 材料の弾性変形および梁のたわみに関する概念が理解できる。 2. 内燃機関の仕組みとその性能およびエンジンの出力、燃費、熱効率等の相互関係が理解できる。 3. 管路内の流れのエネルギー損失を調べることができ、配管設計が理解できる。 4. 動つりあいの原理を理解することによって、各種機械に生ずる振動の基本知識が理解できる。 5. 機械材料の材質を決定する顕微鏡組織に関する基礎知識を習得する。 6. 切削加工時における仕上げ面粗さと切削工具の刃先形状や切削条件との関係が理解できる。 7. 実験内容を把握して実験を実施し、得られた結果について概略確認ができる。							○	○		○	◎			4	3	2	432	
専門科目	機械基礎工作実習	1年次	2単位	必修科目	【学習・教育目標】機械技術者の「ものづくり」の基本の一つとなる機械工作技術(切削加工、仕上げ加工、溶接加工)の基礎を実験学習し、この工作実習で得た実務体験を通して、機械設計におけるデザイン能力の基礎および機械設計・製作における課題発見・解決能力の基礎を修得する。									◎				2	1	2	212		





科目区分	科目名	開講年次	単位	必修選択の別	学習・教育目標及び到達目標	1			2			3			4			ナンバリング						
						1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	百の位	十の位	一の位	合計			
専門科目	機械材料 I	2年次	2単位	必修科目	【学習・教育目標】金属材料の中で、鉄鋼材料を理解するための基礎知識を習得する。Fe-C系平衡状態図を中心とした鉄鋼材料の組織を理解し、各種鉄鋼材料の種類と諸性質と選定方法について習得する。 【到達目標】受講者はこの科目を履修することによって以下のことができるようになる。 1. Fe-C系平衡状態図の理解(C):0.2 2. 鉄鋼材料の特性と構成する組織との関係の理解(C):0.2 3. 鉄鋼材料の熱処理に関する基礎知識の習得(D):0.3 4. 機械設計に活用する鉄鋼材料の種類とその特性の理解(D):0.3											○	○	◎	3	2	3	323		
専門科目	機械材料 II	2年次	2単位	選択科目	【学習・教育目標】非鉄材料、プラスチック、複合材料およびセラミックス材料についての特性および材料加工の基本原理が理解でき、機械設計に関する知識を修得させる。 【到達目標】受講者はこの科目を履修することによって以下のことができるようになる。 1. 非鉄材料、プラスチック、複合材料およびセラミックスの特性を十分に把握し、機械設計において適切な材料選択ができる。(C):0.3 2. 材料工学に立脚して材料加工の原理を理解し、機械設計に応用できる。(C):0.3 3. これらの能力を機械設計に活かすことができる。(C):0.4											○	○	◎	4	3	3	433		
専門科目	鑄造材料学	3年次	2単位	選択科目	【学習・教育目標】機械加工における鑄造技術の優位性が理解でき、砂型鑄造法を中心に工業的に活用されている方法を学び、溶解・造型などの鑄造工程に関する基礎知識を習得する。さらに、鑄鉄材料の凝固および組織に関する基礎知識から機械的性質との関連性を理解する。 【到達目標】受講者はこの科目を履修することによって以下のことができるようになる。 1. 鑄造技術の基本的な概念の理解とその推移 (C):0.1 2. 鑄造方案の基本的な知識の理解 (C):0.3 3. 各種鑄造法の分類とその特徴の理解 (D):0.2 4. 鑄鉄を製造するために必要な生産技術を習得 (D):0.4											○	○	◎	4	3	3	433		
専門科目	機械力学 I	3年次	2単位	必修科目	【学習・教育目標】物理学に基礎を置き、位置・速度・加速度、力のつり合い、復元力と慣性力の発生原因とつり合い、簡単なシステムの振動モデルの構築、運動方程式の導出、解析手法について理解し身につける。 【到達目標】 1. 減衰がない1自由度系のモデル構築・運動方程式の導出・理論解析ができる。(C):0.5 2. 減衰がある1自由度系の振動解析ができ、解析結果からその特徴を説明できる。(C):0.4 3. 回転体の釣り合いについて理解し説明できる。(C):0.1											◎	○	○	2	3	4	234		
専門科目	機械力学 II	3年次	2単位	選択科目	【学習・教育目標】機械の運動と瞬間中心の求め方、リンク機構の運動、カム機構を理解する。さらに、機械の運転時に生じる振動について、機械力学 I で学習した知識を更に発展させ、多自由度系の振動問題について学び機械設計の重要性について学習する。 【到達目標】受講者はこの科目を履修することによって以下のことができるようになる。 1. 機械の運動と瞬間中心の求め方を理解できる。(C):0.4 2. リンク機構、カム機構の運動が理解できる。(C):0.3 3. 多自由度系の振動解析の概念を理解できる。(C):0.3												○	○	◎	3	3	4	334	
専門科目	機械要素設計 I	2年次	2単位	必修科目	【学習・教育目標】主要な機械要素の特徴・使用方法およびその適正な寸法・強度などの計算方法を修得する。 【到達目標】受講者はこの科目を履修することによって以下のことができるようになる。 1. 機械設計における基本的な機械要素について、その種類・特徴を理解できる。(C):0.3 2. 機械設計における基本的な機械要素の強度計算方法を理解できる。(C):0.2 3. これらの機械要素を機械設計に活かすことができる。(D):0.5												○	◎	○	3	2	5	325	
専門科目	機械要素設計 II	2年次	2単位	必修科目	【学習・教育目標】軸受の設計・寿命計算、歯車の設計、歯車列の回転と方向、ベルト、チェーン、ばねの設計知識を修得させる。 【到達目標】受講者はこの科目を履修することによって以下のことができるようになる。 1. 軸受の設計ができるようになる。(C):0.3 2. 歯車の強度計算、歯車列の回転・方向を理解できる。(D):0.3 3. ベルト、チェーン、ばねの設計ができる。(D):0.4												○	◎	○	4	3	5	435	
専門科目	機械製図法	1年次	2単位	必修科目	【学習・教育目標】機械製図はCADを使用して作成されており、その基礎知識の習得(製図法、規格、規則)し、機械要素部品を例に挙げて製図のできるようになることを目指す。 【到達目標】受講者はこの科目を履修することによって以下のことができるようになる。 1. 製図法の基礎を習得することができる。(F):0.3 2. JISに基づく製図法と規則を理解し、的確な図面の作成ができる。(F):0.2, (C):0.2 3. 2次元の図面から3次元の物体構造が想像できる。(C):0.3													○	◎	○	2	1	5	215
専門科目	設計製図演習 I	1年次	2単位	必修科目	【学習・教育目標】CADを用いた機械製図図面作成、演習、そしてCAD作図機能や図面出力方法を習得する。 【到達目標】受講者はこの科目を履修することによって以下のことができるようになる。 1. Solid Worksを利用して作図機能が修得できる。(D):0.6 2. Solid Worksを利用して機械製図図面の正確な作成と出力ができる。(F):0.4												○	◎	○	2	1	5	215	
専門科目	設計製図演習 II	2年次	2単位	必修科目	【学習・教育目標】JISに基づく製図法と規格、規則、図形の表し方、寸法の表記方法、機械要素部品の製図法、寸法記入法を修得する。																			

科目区分	科目名	開講年次	単位	必修選択の別	学習・教育目標及び到達目標	1			2			3			4			ナンバリング						
						1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	百の位	十の位	一の位	合計			
					【到達目標】受講者はこの科目を履修することによって以下のことができるようになる。 1. JISの製図規則を身につけ、CAD製図能力を増進する。(D):0.3 2. 機械図面を短時間で読み取り、製図する能力を身につける。(D):0.3 3. 設計・製図に関する取り合い等の基礎的な事項を理解する。(D):0.4										○	◎	○	3	2	5	325			
専門科目	応用設計	3年次	2単位	必修科目	【学習・教育目標】比較的規模の大きなシステムの仕様決定から、概念設計、基本計画、詳細設計、生産設計の一連の設計作業を経験する。エンジニアリング・デザイン能力を身につける。 【到達目標】受講者はこの科目を履修することによって以下のことができるようになる。 1. 機械工学の専門知識を設計に応用できる。(C):0.2 2. 設計技術の応用能力を身につけ、共同で課題を遂行できる。(D):0.6 3. 自らの創意工夫により課題解決する能力を一連の設計作業を通し身につける。(E):0.2										○	◎	○	4	3	5	435			
専門科目	加工学 I	1年次	2単位	必修科目	【学習・教育目標】鋳造・溶接・粉体加工・塑性加工などの主要な加工法に関する基礎知識を理解でき、これらを機械設計・製作に応用できる能力を修得する。 【到達目標】受講者はこの科目を履修することによって以下のことができるようになる。 1. 各種加工法について、その種類・特徴を理解できる。(C):0.2 2. 各種加工法の基本的原理を理解できる。(C):0.2 3. 各種加工法を機械設計・製作に応用できる。(D):0.6										○	◎	○	2	1	5	215			
専門科目	加工学 II	2年次	2単位	必修科目	【学習・教育目標】機械の製作過程における切削加工、砥粒加工、旋削加工に関して深い知識を修得する。これらの加工における理論面を含む高度の専門知識を修得することにより、機械設計におけるデザイン能力および機械設計・製作における課題発見・解決能力を高める。 【到達目標】受講者はこの科目を履修することによって以下のことができるようになる。 1. 切削加工における理論を理解できる。(C):0.2, (D):0.3 2. 研削加工における理論を理解できる。(C):0.1, (D):0.2 3. 旋削加工および工作機械の知識を理解できる。(C):0.1, (D):0.1										○	○	◎	3	2	5	325			
専門科目	接合工学	3年次	2単位	選択科目	【学習・教育目標】設計および製作の両者を対象とした溶接・接合・切断に関する基本技術および品質保証技術の知識を修得する。これらの溶接・接合・切断における理論面の基礎的な専門知識を修得することにより、機械設計におけるデザイン能力および機械設計・製作における課題発見・解決能力を高める。 【到達目標】受講者はこの科目を履修することによって以下のことができるようになる。 1. 接合法の種類や特徴および溶接設計を理解できる。(C):0.2, (D):0.4 2. 溶接による熱影響および溶接欠陥を理解できる。(C):0.1, (D):0.1 3. その他の熱加工技術の種類や特徴を理解できる。(C):0.1, (D):0.1										○	○	◎	4	3	5	435			
専門科目	塑性加工学	3年次	2単位	選択科目	【学習・教育目標】塑性加工の主要な加工法に関する特徴を理解し、塑性加工に特有のトライボロジー現象の基礎知識をものづくりへ応用できる能力を習得する。 【到達目標】 1. 塑性加工の主要な加工法に関する特徴を理解できる。(C):0.1 2. 主な塑性加工に必要な加工力とエネルギーを算出できる。(C):0.2, (D):0.2 3. 塑性加工における特有のトライボロジー現象を理解できる。(C):0.3, (D):0.2										○	○	◎	4	3	5	435			
専門科目	基礎流れ学	1年次	2単位	必修科目	【学習・教育目標】流体の粘性や圧縮性の性質を知り、流体中の圧力やエネルギー保存則・運動量保存則を扱うことができるようになる。 【到達目標】受講者はこの科目を履修することによって以下のことができるようになる。 1. 機械工学における流体力学の役割と位置付けを理解し、粘性・圧縮性などの流体の性質について基礎知識を修得する。(C):0.3 2. 静止流体の圧力や壁面に働く力を求めることができ、その基礎知識を修得する。(C):0.4 3. ラグランジュやオイラーといった流れの記述法について学び、流線やベルヌーイの定理など流体力学の基礎となる概念を修得する。さらに、ピトー管や絞り流量計による流れ計測法を身に付ける。(C):0.3											○	◎	○	○	2	1	6	216	
専門科目	流体力学 I	2年次	2単位	選択科目	【学習・教育目標】流体の粘性や圧縮性の性質を定量的に表すことができ、流体中の圧力やエネルギー保存則・運動量保存則を扱い、流体から物体に作用する力、流体のエネルギーの損失、流体から取り出せるエネルギーおよび流体輸送に必要なエネルギーの評価ができるようになる。 【到達目標】受講者はこの科目を履修することによって以下のことができるようになる。 1. 機械工学における流体力学の役割と位置付けを理解して、粘性・圧縮性など特性を有する流体を扱う基礎知識を得ることができる。(C):0.4 2. 静止流体の圧力や運動状態における流体の圧力が求めることができるようになる。(C):0.3 3. ベルヌーイの定理や運動量保存則を用いて、物体に働く力、流体のエネルギー損失、流体から取り出せるエネルギーや流体輸送に必要なエネルギーの見積もりができるようになる。(C):0.3												◎	○	○	○	3	2	6	326



科目区分	科目名	開講年次	単位	必修選択の別	学習・教育目標及び到達目標	1			2			3			4			ナンバリング							
						1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	百の位	十の位	一の位	合計				
専門科目	制御工学Ⅱ	3年次	2単位	選択科目	【学習・教育目標】機械類を自動制御するための基本的な考え方を習得するため、制御工学Ⅰでの知識をもとに、系の安定性の評価、系の特性評価、系の特性改善手法について学ぶ。 【到達目標】受講者はこの科目を履修することによって以下のことができるようになる。 1. 特性関数と安定性の関係を理解して、安定判別ができる。(F):0.3 2. 制御系の特性評価手法を習得して、制御系の評価や特性改善ができる。(F):0.4 3. 離散システムの制御手法について基礎的な説明ができる。(C):0.3											○	○	◎	3	3	7	337			
専門科目	電気電子工学Ⅰ	3年次	2単位	選択科目	【学習・教育目標】計測制御に必要となる基礎的な回路理論の修得や、各種電子素子に関する知識の習得を目指す。 【到達目標】受講者はこの科目を履修することによって、以下のことができるようになる。 1. 機械部品における電子回路の役割を説明できる (C):0.2 2. 半導体素子の基本的特性を説明できる (F):0.3 3. 基礎的な増幅回路を設計できる (F):0.2 4. 論理回路の基本特性を説明できる (F):0.3											◎	○	○	2	3	7	237			
専門科目	電気電子工学Ⅱ	3年次	2単位	選択科目	【学習・教育目標】 1. 電気事象と力学事象とのかかわりを考慮して基本的な取り扱いができ、説明できる。 2. 電気現象に関する各種原理を学習し、機械工学への応用を考える。 【到達目標】受講者はこの科目を履修することによって以下のことができるようになる。 1. 直流・交流電気回路の基本的計算ができる。(C):0.3 2. 電磁気の基礎的現象の説明ができ、電気現象と力学現象との変換について説明できる。(C):0.2, (F):0.2 3. 直流発電機や電動機に関するトルク・起電力・速度などの基本的計算ができる。(C):0.3												○	○	◎	3	2	7	327		
専門科目	プログラミング	2年次	2単位	選択科目	【学習・教育目標】コンピュータによるシミュレーション、データ収集、データ分析のために最低限必要とするプログラミング能力の基礎知識を修得させる。 【到達目標】受講者はこの科目を履修することによって以下のことができるようになる。 1. 変数・データ型・演算について説明でき、プログラムへ応用できる (F):0.2 2. 基礎的なプログラムの技法について説明でき、プログラムへ応用できる (F):0.25 3. 微分方程式の数値解法について説明でき、プログラムへ応用できる (F):0.2 4. 自らの考えをVisual Basicのプログラムで表現できる (F):0.25 5. 基礎的な力学モデルの現象を説明できる (C):0.1								◎			○	○	○	3	2	7	327			
専門科目	法工学	3年次	2単位	選択科目	【学習・教育目標】 技術を創出する活動にまつわる主たる法制度について理解を深め、当該法制度のあるべき姿を考究する。 【到達目標】受講者はこの科目を履修することによって以下のことができるようになる。 1. 技術者がどのような法令によって制約を受けているかを知り、技術者として行う個別具体的な活動が適法なものか否かを判断できるようになる。 2. 技術を生み出す活動がどのような法令によって支援を受けられるかを知り、技術者として当該支援を適切に活用できるようになる。 3. どのような法的制約(規制)または法的支援が技術を創出する活動にとってのぞましいかを考究することができるようになる。															◎	○	4	3	8	438